

第5回文化発信戦略に関する懇談会 議事録

日時：平成20年4月7日(月曜日)15:00～17:00

場所：文部科学省 東館 3F1 特別会議室

出席委員：池上委員，北岡委員，北川委員，久保委員，竹本委員，遠山委員，トーザン委員，福原委員，森口委員，山内委員

(事務局からの中間まとめ骨子(案)について説明後，各委員等から御発言。)

■全体について

- この骨子(案)からは，限られた資源をいかに有効に投入するかという戦略が感じられない。例えば，□の最後に，「税制上の措置などに配慮する」とある。これは長年言われてきたが，実現していない。配慮したけれども，できなかったということで終わってしまうのではないか。霞ヶ関の政治文化の中で，特に他省庁の権限について「配慮する」というのは極めて弱い言葉だ。本当に実現したいなら，もっと強い用語を使って，メリハリある表現にする必要がある。
- 以前にも，幅広でもっともらしいとりまとめは存在した。今まで何が達成され，何が達成されなかったのかを整理し，その上で総花的でない，実現に向けたアクションプランを策定するとよいのではないか。
- 今すぐ取り組むもの，長期的に取り組むもの，それぞれわかるように記述するべきではないか。
- この骨子案では，いつ取り組むのかがわからない。今しなくてはいけないことを明確にし，プライオリティをつける必要がある。
- びわ湖ホールの存続が危ぶまれているように，地方は疲弊している。これを踏まえて中間まとめをつくる必要がある。
- 文化は，保持するだけでなく，それが輝くようにしていく必要がある。
- 青木長官のように見識ある人が，トップとしてスピード感あふれる改革をしてほしい。

■「□ 海外に対する文化発信の重点的な取り組み」について

(発信の対象について)

- 日本に関心の高い国に配慮するのはいいが，多くの，日本に対する知識が低い国の人々にも日本の文化を知ってもらうことが必要ではないか。
- 日本に対する知識が低い国に対して，例えば，ヒンズー語，アラビア語等で日本文化を紹介するわかりやすい出版があればよい。

(発信する内容について)

- アニメ・マンガは今がピークであり，今後，日本文化として何を打ち出していくか考える必要がある。
- 美術の中で，世界に正しく日本らしいと評価されるのは伝統工芸であり，日本が国際社会に発信できる数少ないアイテムの1つだと思う。

(インターネットの活用について)

- 日本文化についてインターネット上で検索したとき，求めるものに適切にアクセスできる体制をつくる必要がある。

- 日本の在外公館のホームページを見ても、日本の文化、歴史、政治などの魅力がわかる内容になっていない。ホームページの中身については、文化庁も協力して充実させていくことが必要である。

(日本文化の発信に貢献した外国人の顕彰について)

- 海外で日本文化の発信に貢献している人の表彰制度があるとよい。また、その人達が積極的に発言できる環境をつくるべきではないか。
- 静岡県では、日本の優れた文学を世界の人々に紹介し親しんでもらうため、大岡信氏が委員長を務め、世界各国を対象とした日本文学の翻訳コンクールを開催している。このように、地方を拠点とした特色ある取組を文化庁も支援するとよい。
- マンガについては、外務省でも、海外で漫画文化の普及活動に貢献する漫画作家を顕彰するための国際漫画賞を実施している。

■ 「□ 国内における外国人に対する日本文化紹介の強化」について

- タイトルの「外国人に対する」は不要。対象は外国人に限らず、一般的に必要なこと。

(日本文化の情報拠点の整備について)

- マンガについても、海外のファンが日本に来た際に観光拠点となる施設が必要。秋葉原に設置して、東京アニメセンターと連携できるとよいと思う。
- 東京アニメセンターのような情報拠点の充実を図るべきである。日本を代表する施設として、ライブラリー機能、シアター機能などを拡充すべきではないか。
- そのためには、この懇談会で議論するよりも、メディアやアニメの専門家を集めてワーキング・グループを作り、急ぎ対策を練った方がよい。
- 作品展や資料アーカイブ機能を持つ伝統工芸センターを立ち上げてほしい。世界と交流する端緒になると思う。

(外国人を意識した日本文化の紹介について)

- 日本文化を紹介するガイドブックを文化庁が作成し、民間や留学生のネットワークに渡せるとよい。

(留学生支援について)

- 留学生は文化交流の効果的な媒体となりうる。
- 留学生の活用や協力につき記述がないのは問題ではないか。留学生が帰国したとき、日本についてのどのような理解で広めてくれるかというのは非常に重要なところ。あわせて、どのような国からどれくらい留学生を呼ぶかということも、戦略的発想で決めていくべきではないか。
- 留学生が勉強以外の日常生活を楽しめない、日本のファンにならない、という問題がある。これは、留学生が地域コミュニティに入っていないことによるものではないか。
- 米国と比較して、大学のコミュニティが充実していないという背景もある。
- 留学生をめぐる状況については、悪化していると思う。チューター制度についても、大学院生は専攻の勉学以外、余分なことはできないような状況であり、チューターとして働く時間や給料が十分ではない。
- 留学生については、住居の確保にも問題がある。住宅問題も含め、留学生に必要な情報がすぐ渡るようにすべきだと思う。
- 自身がパリに留学した経験では、滞在時はフランス人やその社会に不満があっても、帰国するとファ

ンや友人になっていた。そういう側面もあると。

○ 日本での生活に満足している留学生もおり、詳細を分析した方がよいのではないかな。

■ 「日本文化を海外発信するための国内体制の整備」について

(日本文化に関する学習プログラムの開発について)

○ 誰でも文化発信に資することができるよう、歴史・伝統など日本文化発信のポイントを教えておいてほしい。

○ 日本文化に関する学習プログラムについては、大学のグッド・プラクティスを活用するなど、高等教育機関にインセンティブが働くようにするとよいのではないかな。

(文化芸術創造都市の推進について)

○ 昨年文化庁が始めた文化芸術創造都市を表彰する取組はよいと思う。

○ 地域の文化が、経済第一で破壊されていく現状がある。文化を守る法律を文化庁でつくるべきではないかな。

○ 文化発信は、外国人向けだけではない。地域の文化として、守っていく必要がある。

○ 頑張っている都市や現場があるので、そういったところを徹底的に応援するべきだと思う。

(関係省庁の連携と官民の相互協力について)

○ 海外で日本の研究をしている研究者等の情報や、海外の美術館・博物館にある日本の美術品等の情報は、集約しているのか。海外で埋没している日本の文化を掘り起こす必要がある。

○ 国際交流基金で、海外の日本文化のコレクションや日本研究者のデータを収集している。

○ こういった海外における日本文化の情報を、関係機関の間で十分共有することが重要。

○ 国際社会貢献センターという海外での経験を持った人材(商社 OB)を集めた NPO 法人がある。このような既にある民間のパワーを活用するとよい。

○ 民間企業は既に文化的な発信を随分やっている。民間の動きを認知した上で、官と民、企業と個人、みんな一緒になってやっていくことを強調すべきだと思う。